
NPO の経営 自立の方法 里山倶楽部の場合

大塚 憲 昭
(NPO 法人里山倶楽部
理事、バイオマスエネルギー事業部長)

NPO 法人里山倶楽部は、1995 年 11 月に民間の任意団体として発足してから 12 年間の活動実績があります。現在は会員数 330 人、専従職員 5 名、事業数 26、年間収入 4000 万円の規模になっています。キャッチフレーズは「すきなことして、そこそこ儲けて、いい里山を作る」として、環境系の団体としては珍しく、設立当初より事業収入をはっきりと意識した活動を行ってきました。

しかし、収入増が NPO 法人の目標ではありません。事業規模が大きいイコール NPO の評価が高いということでは決してなく、団体のミッション（任務）遂行と収入規模、活動内容などとのバランスが重要です。里山倶楽部の場合は、ミッションに沿ったいろいろな活動を行っているうちに結果的にそうなったのですが、多くの会員が様々な活動をしていることの集積の表れだと言えます。

里山倶楽部には組織の運営方法に独特(?)の思想があり、そこから生まれた多様な人材が集まる秘訣や会員が主体的に活動する仕組みがあります。その仕組みが、すべての NPO の経営に当てはまるものではないですが、企業経営とは違う手法で NPO 自立の道を考えるときのヒントになるはずです。

今回の講座では、概ね下記のような内容をお話します。

- 1、自己紹介：なぜ私が NPO で専従をしているのか、里山倶楽部との出会いと個人的な思いや夢について。
 - 2、里山倶楽部の経営思想：組織ではなく人を活かす思想から生まれた独特の経営手法について。
 - 3、バイオマスエネルギー事業の現状と展望：バイオマスエネルギー事業の生い立ちと現状、今後の展望について。
 - 4、新たな NPO の自立に向けて：里山保全から提案する NPO 自立モデルについて。
- 皆様のご参考になれば幸いです。

以上